

★学校教育目標		自ら考え学ぶ子（か：かみがえる子） 思いやりのある子（や：やさしい子）		健康でたくましい子（つ：つよい子） めあてをもってやりぬく子（く：くじけない子）		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）							
【めざす学校像】 一人一人が輝ける「かつやく」の場所があり、笑顔と歓声にあふれる「明日また来たい」学校							
【めざす児童像】							
【めざす教師像】							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標		
いのち	児童の自己肯定感を醸成し、自他ともに命を大切に、互いに尊重し合える豊かな心を育む。	●各教科・領域等の場面において、一人一人の児童が互いに尊重し大切にされる活動を計画的に位置付ける。 ●集団における活躍の機会を保障し、どの児童にも有用感を味わわせることができるようにする。	●いじめアンケートや観察等を通して、いじめの早期発見に努める。また、いじめの疑いがある場合は、組織的に早期対応を行う。 ●教育活動全般において、相手の考えに向き合うことのできる対話の場や、友達の良い姿を発見できるような場面を取り入れる。 ●委員会活動・クラブ活動の他、学級やグループ内において役割を果たすことの大切さや貢献することの心地よさを味わわせる。 ●たてわり活動や異学年とかかわる機会を位置付け、学年による役割意識を高めさせる。	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	1	肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。
まなび	知識及び技能の確実な習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。	●基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、児童が「できた」「わかった」「役に立った」と感じられるような学習活動を工夫する。 ●児童の習熟度に応じて、主体的かつ豊かな学びの中で学習ができるような指導の充実を図る。 ●学習したことや体験したことなどを自分なりに整理し、他者に発信できるような学習活動を意図的に位置付ける。	●すべての授業において、めあてを提示し、学習のねらいを明確にした構造的な学習を展開する。また、学習活動を通してねらいが達成できたかどうかのふりかえりを確実に行う。 ●授業のUD化に基づき、学習内容の一層の定着につなげていく。また、特に支援が必要な児童については、校内支援の在り方を検討し、よりよい学びの場を保障する。 ●校内研究における一人一台端末を活用した単元開発に努め、児童が主体的かつ豊かにかかわり合う学習活動につなげていく。 ●短歌、俳句、言葉遊びなどを通して日常的に児童の言語環境を支えられるようにする。	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	1	肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。
そだち	児童一人一人健全な成長のために、個性を認めながら社会的資質や行動力を高める。	●全教職員による共通理解のもと、学校生活の規律・基本的な生活習慣を早期に定着させる。 ●学校の課題に対して児童が自ら考える自主的な活動を支援する。 ●児童が自らの命を守ることができるような安全指導を定期的に実施する。 ●特別支援教育コーディネーターが中心となって、各学年の担任・児童を支援する。	●南平小の7つの約束を年度の早い時期に定着させるとともに、学年・学校全体で方針を一つにした指導を年間を通して徹底する。 ●あいさつ週間、廊下歩行、5分前行動の3本柱に向けた指導を徹底するとともに、定着に向けた自主的な活動を支援する。 ●避難訓練を命を守るための授業と位置付け、事前・事後の指導を徹底する。特に避難時の私語禁止は共通指導事項とする。 ●特別支援教育コーディネーターが日常的に情報を収集し、全教員で全児童を見守る支援体制を構築する。また、校内委員会を定期的に開催し、学級担任への適切な支援をする。	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	1	肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。
ちいき	地域の自然や人材とのかかわりを通して、ふるさと日野で育っているという実感を醸成する。	●南平小の自然や産業に関する営みに触れ、体験的に学べる学習活動を指導計画に位置付ける。 ●日本の伝統的な文化や地域の文化に触れそれらのよさを体験的に学べる学習活動を指導計画に位置付ける。	●生活科・総合的な学習の時間、理科・社会科等の年間指導計画に、地域を素材とした教材や地域人材の活用を意図的に位置づけ、適切に評価する。 ●地域に関して学習したことを、他者に発信する機会を設け、児童と地域人材が豊かにかかわれるようにする。 ●幼保連携、小中連携、都立高校や近隣の大学との連携等を企画し、本校児童が様々なとかがわり合って生活していることを実感できるようにする。	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	1	肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。
そしき	学校の教育活動が、組織的に動くような仕組みを作ることも、教職員によるチーム南平としての意識を高める。	●主幹教諭・主任教諭を中心とした校務分掌の組織的対応を定着させる。 ●全教職員が若手教員の指導力向上のための人材育成に努める。 ●思いやりの精神で教職員相互の動きに関心をもち、サポートし合える教員集団を構築する。	●校務分掌における企画立案の際に、報告・連絡・相談を徹底し、常に校長の経営方針に基づいた職務の遂行に努める。 ●SSSを活用した校務軽減に努め、生み出した時間を若手への人材育成の時間にあてる。若手教員は積極的な授業公開・授業観察を行い、自身の指導力向上に努める。 ●学校全体で実施する行事には全員が役割を担い、担当者だけに負担集中しないよう各自が配慮をする。 ●学年内・ブロック内、分掌間等の意思疎通に努める。また保護者や児童からの相談に寄り添う姿勢で応対するとともに、管理職との情報共有を徹底する。	4	100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	保護者のアンケートで、90%以上の保護者が肯定的な評価をした。
				3	90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	保護者のアンケートで、80%以上の保護者が肯定的な評価をした。
				2	80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	保護者のアンケートで、70%以上の保護者が肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	1	肯定的な評価をした保護者が70%未満だった。

※今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が少なかったためアンケートはっておりません。ご了承ください。